

# 11月中旬～の虫たち

2020.11.21 自然解説員 神谷耀生



## ショロウグモ

秋に目立つ大きなクモ。公園などの木と木の間こうえんに金色きんいろに輝く網かがやを張りあみます。この時期じきには小さなアブラムシが網にたくさんひっかかるので、網を張り直すタイミングで古くなった糸ごとまとめて食べます。多くのクモは網を張りっぱなしにはせず、網のネバつきがなくなってくるころに糸を食べて張り直なおします。



### アブラムシの仲間

この時期のジョロウグモのメインメニュー。体が白いロウ物質でおおわれており、「雪虫」などとも呼ばれます。



### ベッコウバエ

かなり大きなハエ。羽音も迫力があり、一瞬ハチかと思うほど。樹液によくやってくる。警戒心が強く、撮影はむずかしい。



## ヤツデ

庭や公園などによく植えられる樹木。秋の終わりから冬の初めにかけて花を咲かせます。  
花の少ないシーズンには貴重な存在で、ハエやハチなどがミツをなめに集まります。



### ツマグロキンバエの仲間

ヤツデの花に来ていた昆虫<sup>こんちゅう</sup>。キンバエと名前はつきますが、動物<sup>どうぶつ</sup>のふんに集まるメタリックグリーンのキンバエとは違<sup>ちが</sup>う仲間で、花のミツばかりをエサにする、せいけつなハエです。



### ルリチュウレンジ



### ルリチュウレンジ幼虫

幼虫ようちゆうがツツジの葉っぱをエサにする美しいハチ。ハチの仲間ではありますが毒針どくはりは持たず、刺きしてくることもありません。よく「セイボウ」の仲間と見間違みまちがわれることがあります。



### サザンカの花とヒラタアブの仲間

サザンカは葉っぱも花もツバキに似にていますが、ツバキの花はまるごと落ちる一方で、花びらが一枚ずつ散ちり落ちていくなどのちがいがあります。

ミツをなめにきたのはヒラタアブの仲間です。はばたきながら空中くうちゆうに止とまるホバリングが上手じょうずにできる小さなアブで、人や動物の血ちではなく花のミツばかりをエサにします。



### チャドクガのぬけがら

サザンカもツバキもとても美しい花をさかせますが、気を付けてほしいのがこれらの樹木の葉っぱをエサにするチャドクガ。毒のある細<sup>こま</sup>かい毛が空気中<sup>くうきちゆう</sup>にただよ、直接<sup>ちよくせつ</sup>触<sup>さわ</sup>らなくてもかぶれることがあります。秋から冬にかけてでも、毒の毛が残<sup>のこ</sup>ったぬけがらや、毒の毛でおおわれた卵<sup>たまご</sup>などが木には残っているの、お花見<sup>はなみ</sup>のときは要注意<sup>ようちゆうい</sup>です。

作成：2020年11月 21世紀の森と広場 パークセンター